

## 特長

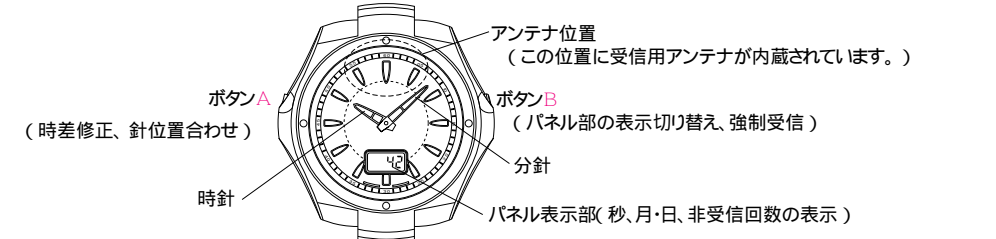
この時計は、標準電波を受信して正確な時刻を表示する電波修正時計機能を持っています。

- 電波修正機能 …… 毎日、自動的に標準電波（JJY）を受信し、時刻を修正します。（2周自動選択受信）
- 精度 …… 40kHz 福島局 と60kHz 九州局 宛自動的に選択し、受信します。強制受信も可能です。
- カレンダー表示機能 …… 標準電波から解読した「月・日」を表示することもできます。時差修正に連動した日付を表示できます。
- 非受信回数表示機能 …… 受信できなかった回数（日数）が表示され、受信状況が分かります。最大「9」まで計数表示します。
- 時差修正機能 …… 日本時間と時差のある地域へ行った際、現地の時刻に合わせることができます。
- 非受信時の時刻合わせ機能 …… 標準電波を受けられない場合、時刻合わせして一般のクォーツ精度で使用できます。

## 製品仕様

- 水晶振動数 …… 32,768Hz H± 秒間の振動数
- 精度 …… 平均月差 ± 2秒  
(電波受信による時刻修正が行われない場合、気温5 - 35 にあて腕につけた場合)
- 作動温度範囲 …… 0 - +50
- 駆動方式 …… ステップモーター式(時・分針)：1分時計
- 表示体 …… FE 電界効果 液晶
- 使用電池 …… 小型リチウム電池 SB-T17 1個
- 電池寿命 …… 約 3年
- 電波受信機能 …… 2周自動選択受信機能 …… 40kHz 福島局 と60kHz 九州局 宛自動的に選択。自動受信 …… AM2 30- AM6 30 受信状況によって受信回数は異なる。強制受信機能  
受信から次の受信まではクォーツの精度で動きます。
- 電子回路 …… 発振、分周、駆動、受信(C-MOS-C)：2周  
上記の製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

## 各部の名称とはたらき



ボタンAは誤入力防止のため、ケースに埋め込まれています。操作のため先が細いものをご使用ください。分針は1分時計のため、5秒までの分位置に留まっていますので、ご注意ください。

ボタンBを押すと、の順序でパネル表示部が切り替わります。

秒表示 → カレンダー表示(月・日) → 非受信回数表示

上記は受信状態が良好の場合の表示です。非受信回数は受信状況によって異なります。受信ができていない場合はカレンダーが表示されません。詳しくは「ご使用方法」を参照。非受信回数表示は約秒でカレンダー表示に切り替わります。

## ご使用方法(時刻の合わせかた)

この時計は標準電波を受信して正確な時刻を表示することができます。ご購入後お使いになる前に、標準電波を受信してからご使用することをお勧めします。

はじめてご使用される場合

- ボタンBを押し、秒表示を約12時00分まで押し続け、パネルに「00」の表示になります。基本位置である12時00分を示すまで少し時間が掛かります。
- ボタンAを押して、針が早送りし始めます。早送りが終わると時分針が12時00分を指します。

ここで、針位置が12時00分を示した場合は、「操作3」に進んでください。

- ボタンAを押して、針位置を12時00分に合わせてください。ボタンAを回押すと、パネルの表示は「08.88」に替わり、針位置合わせ状態になったことを示します。ボタンAを押すと、0.5分単位で進みます。押し続けると早く進みます。

- ボタンAによる針位置修正が約秒間なかった場合、自動的に受信状態になります。表示も「00」等に切り替わります。また針位置修正が終わっていない場合、ボタンAを押して合わせることができます。
- 針位置の合わせが終わったら、受信を行います。針位置修正のボタンAの入力がないと自動約秒後に受信状態に切り替わります。電波の受信しやすい場所に置いてください。(例、窓際での電子機器の影響のない場所)

通常受信には約2分～約秒かかります。(環境によって異なります。)受信しやすい環境については「電波修正時計とは」を参照してください。受信中にボタンBを押すと、受信を強制終了しますので、ご注意ください。

- 受信が完了すると、針が早送りして正確な時刻を示します。電波が正しく受信できない環境にある場合、一定時間受信を継続した後自動的に受信を中止します。受信継続の環境等によって異なりますが、約秒で、受信を中止した場合、受信前の時刻に基づく表示が始まります。(「受信できない場合」を参照ください)
- ボタンBを押して、パネルの表示内容を確認してください。日付が正しく表示されること、非受信回数が「0」になっていることを確認してください。

ボタンAによる針位置修正が約秒間なかった場合、自動的に受信状態になります。表示も「00」等に切り替わります。また針位置修正が終わっていない場合、ボタンAを押して合わせることができます。

針位置修正中は「08.88」の点滅になります。

ボタンAを押して、針位置を12時00分に合わせてください。パネルの表示は「08.88」に替わり、針位置合わせ状態になったことを示します。ボタンAを押すと、0.5分単位で進みます。押し続けると早く進みます。

ボタンAによる針位置修正が約秒間なかった場合、自動的に受信状態になります。表示も「00」等に切り替わります。また針位置修正が終わっていない場合、ボタンAを押して合わせることができます。

針位置修正中は「08.88」の点滅になります。

非受信回数について

- 自動受信の状態を非受信回数で確認できます。
- 自動受信時に時計が置かれている場所の受信状況がわかります。
- ボタンBを押して、パネル部の表示される非受信回数を確認します。

秒表示 → カレンダー表示(月・日) → 非受信回数表示

非受信回数	受信状況	その後していただきたいこと
0	受信が良好にできている	今の環境でご使用ください。(使用または保管場所)
1-9	この回数、日数、自動受信ができていません。例)非受信回数「2」の場合、2日連続で自動受信ができませんでした。	いつもの使用環境の場合は、使用環境を変えてみてください。その後非受信回数を確認してみてください。必要に応じ、強制受信することをお勧めします。(「強制受信のしかた」参照)

強制受信のしかた(非受信回数が多くなった場合)

- この時計は、基本的に自動受信により修正を行います。非受信回数が増えた場合、強制的に標準電波を受信することができます。
- その場で電波が受信できるかを確認できます。
- 針位置の確認もできます。

- ボタンBを押し、秒表示を約12時00分位置に早送ります。

ボタンBを押し、秒表示を約12時00分位置に早送ります。早送りが終わると時分針が12時00分を指します。パネルに「00」の表示になります。基本位置である12時00分を示すまで少し時間が掛かります。

針位置が12時00分でない場合は、ボタンAを押して合わせてください。(詳しくは「はじめてご使用される場合」を参照)

- 基本位置(12時00分)を表示後、自動約秒後に受信状態に切り替わります。電波の受信しやすい場所に置いてください。(例、窓際での電子機器の影響のない場所)

受信中は「00」が点滅します。受信中には「00」からスタートし「秒」のような表示になりますが、受信中の表示は秒ではありません。通常受信には約2分～約秒かかります。(環境によって異なります。)受信しやすい環境については「電波修正時計とは」を参照してください。受信中にボタンBを押すと、受信を強制終了しますので、ご注意ください。

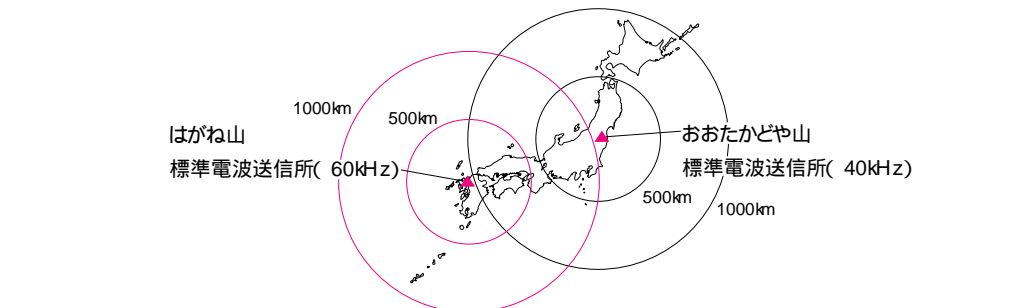
## 電波(修正)時計とは

電波修正機能とは

- 正確な時刻およびカレンダー情報をのせた標準電波を受信することにより、現在時刻を表示する時計です。
- 標準電波とは
- 通信総合研究所が運用している時刻情報をのせた電波で、国内2周所の標準電波送信所からそれぞれ異なる周波数で送信されています。
- 標準電波の時刻情報はおよそ10年に1秒の誤差という超高精度を保つ「セシウム原子時計」によるものです。

電波受信について

- 各々の送信所からの受信範囲の目安は、条件により異なりますがおおむね1,000kmです。個別の状況により異なりますが、東日本地域は40kHz(福島送信所)、西日本地域は60kHz(九州送信所)福岡と佐賀の県境)の電波が受信しやすいと想定されます。
- ただし、天候、置き場所、時計の向き、時間帯あるいは地形や建物などの影響などによって、受信できない場合があります。



はがね山 1000km 500km 標準電波送信所(60kHz)

おおたかどや山 500km 1000km 標準電波送信所(40kHz)

「電波障害等により、誤った受信をした際は、誤った時刻を表示する場合があります。また、受信場所・電波状況によっては受信できない場合があります。このようなときは、場所を変えてお使いください。受信できない場合は、クォーツの精度で動きます。」設備のメンテナンスや障害の影響などにより停波することがあります。停波に関する情報は、通信総合研究所(CRL)のホームページ( http://jly.crlgo.jp )をご覧ください。

ご使用場所(保管場所)

本製品は、テレビやラジオと同様に電波を受信するものです。ご使用の際はできるだけ電波の受けやすい窓際などに置いてください。また、電波ノイズを発生させるもの近くでご使用は避けてください。

送信所

12時位置のアンテナ部を送信所のある方向に向けるとより良い受信環境になります。自動受信時間帯(AM2:30-AM6:30)に時計を置く場所は受信しやすい環境を選びましょう。

その他、次のような環境下では正確に受信できないことがあります。

- ビルの中、ビルの谷間、地下。
- 高圧線、テレビ塔、電車の架線の近く。
- テレビ、冷蔵庫、エアコン、空気清浄機、パソコン、ファクシミリ等の家電製品やOA機器の近く。
- 工事現場、空港の近く、軍事基地や交通量の多い場所など、電波障害の起る場所。
- 乗り物の中(自動車、電車、飛行機など)
- スチール机等の金属製の家具の上や近く。

## 受信できない場合(手動時刻合わせ)

- 標準電波を正しく受信できない環境または地域で、時刻を合わせることができます。
- 時刻表示のみの機能としてご使用ください。(日付の合わせはできません)尚、標準電波が受信できる場所に移動した場合は、その後、自動的に受信します。

- ボタンAとボタンBを同時に押し続けてください。この操作で以前の受信情報がすべて消去されます。

ボタンA → ボタンB

- ボタンAを押して、針位置を12時00分に合わせてください。パネルの表示は「08.88」に替わり、針位置合わせ状態になったことを示します。ボタンAを押すと、0.5分単位で進みます。押し続けると早く進みます。

ボタンAによる針位置修正が約秒間なかった場合、自動的に受信状態になります。表示も「00」等に切り替わります。また針位置修正が終わっていない場合、ボタンAを押して合わせることができます。

針位置修正中は「08.88」の点滅になります。

- 針位置合わせが終わったら、パネル表示部が「08.88」の点滅が「00」に替わり、ボタンAを押すと、0.5分単位で時刻の合わせができます。押し続けると、早く進みます。

ボタンAで修正中は、「分」を表示します。

「時計」と「分針またはパネル部の分表示」を見て、時刻を合わせます。ボタンAを押し続けた際の針の動きは不連続な動きですが異常ではありません。時刻は12時間制で合わせるため、午前午後は関係ありません。

<秒を正確に合わせる方法>

- 1)10:00の時報で合わせる場合、9:59になってから時刻を10:00に合わせる。
- 2)時報を待つ間に、パネル表示部に「秒」が表示されていることを確認。
- 3)時報と同時にボタンAを押してください、分の「00」表示から秒後には秒表示に切り替わります。

## 時差修正について

- 日本時間と時差のある地域へ行った際、現地の時刻に合わせることができます。
- 時差修正すると時差に応じたカレンダーが表示されます。

この時差修正をするには、標準電波が受信できていることが必要です。

- ボタンAを押すと、パネル表示部に「時」が表示されます。現在の時刻の「時」だけ24時間制の数値で表示します。(例)午後7時ならば、「19」と表示されます。
- さらにボタンAを押して、現地の時刻に合わせてください。パネルの表示を見て、24時間制の「時」で合わせます。ボタンAを押すごとに「+ 時間」になります。ボタンAを押し続けると日本時間に戻ります。時差修正をする時分針が早送り始めます。早送り中でもボタンAによる時差合わせは可能です。
- 3)分針が早送り終わると、時差修正が完了します。

早送りが終わると、ボタンAによるパネルの表示切替が可能となります。時差修正後、表示されるカレンダーはその時に連動した日付が表示されます。ただし、日本時間から「+ 時間地域」は日付変更線を経ている地域の場合は、「+ 3時間地域」がサマータイムを施行する際の日付表示を優先して計算した結果を表示しますのでご注意ください。時差設定後は、受信、自動および強制実行はせずに、時差が不要になった場合は、ボタンAを押し続けると日本時間に戻ります。

## 電池について

- 電池寿命 この時計は新しい1正常な電池を組み込んだ場合、その後約3年間作動します。ただし、自動受信以外に強制受信1回を基準としていますので、それ以上強制受信を行った場合は上記の期間に満たないうちに電池寿命が切れる場合があります。
- 最初の電池 お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能・性能をみるためのモニター用です。お買い上げ後上記の期間に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。
- 電池寿命切れ予告機能 パネルに「Lo」の表示がいたら、電池寿命切れが間近であることを示しています。お早めにお買い上げ店で電池交換をご依頼ください。電池寿命切れ予告機能がたたらくと、強制受信ができなくなります。
- 電池交換
  - 電池交換は、お買い上げ店で「アルパ(専用電池)」ご指定の上、ご用命ください。
  - 電池寿命切れの電池をそのまま長時間放置すると、漏液などで故障の原因になりますので、お早めに交換してください。
  - 電池交換は、保証期間内でも有料となります。
  - 電池交換などでお裏蓋を開くと当初の防水性能を維持できなくなる場合があります。電池交換の際には、お客様の時計の防水性能に合った防水検査をご依頼ください。特に1気圧以上のものは検査が必要です。

警告

- お客様は、時計から電池を取り出さないでください。
- やむを得ずお客様が時計から電池を取り出した場合は、電池または幼児の手が届かないところに保管してください。
- 万一飲み込んだ場合は、体に害があるため直ちに医師にご相談ください。

注意

- 破裂、発熱、発火などのおそれがありますので、電池を絶対にショート、分解、加熱、火に入れるなどしないでください。
- この時計に使用している電池は、充電式ではないので、充電すると液漏れ、破損のおそれがあります。絶対に充電しないでください。
- 常温(5 - 35)からはずれた温度で下で長時間放置すると電池寿命が短くなる場合があります。

## 電池交換後のお願い(システムリセット)

- 電池交換後または、万一異常な表示になった場合、以下の操作を行ってください。時計内部のシステムがリセットされ、正常に機能するようになります。
- システムリセットとその後のご使用方法について

- ボタンAとを同時に押し押し続ける。パネル部の表示が消えて、その後「08.88」の点滅がはじまります。
- ボタンBを押して針位置を12時00分に合わせます。そのまま受信が始まりますので、受信しやすい場所に置いてください。針位置合わせ以降は「ご使用方法」はじめてご使用される場合、を参照ください。その場で、受信ができない場合は、「受信できない場合は(手動時刻合わせ)」を参照し、時刻合わせをしてください。その後、受信可能な場所で自動・強制受信を行ってください。

## こんな時には、

現象	考えられる原因	このようにしてください
時計が止まった。	電池容量がなくなった。	
パネル表示部に「Lo」表示が出ている。	電池寿命切れが間近です。	お早めに電池交換をお買い上げ店またはセイコー取扱店にご依頼ください。
受信できない、非受信回数が増えている。	受信中の時計の向きが送信所の方向を向いていない。 標準電波(JJY)送信所の都府で停波している。 自動受信時間帯に時計を置いている場所の電波が弱い、または電波の届かない環境下にある。 標準電波を受信できていない。 ノイズ等の影響で間違った時刻・日付を受信した。(誤受信)	受信中の時計の向きを変えてみてください。詳しくは「電波修正時計とは」を参照 停波に関する情報は、通信総合研究所(CRL)のホームページ( http://jly.crlgo.jp )をご覧ください。 非受信回数を確認し増えている場合は、標準電波をより受信しやすい環境で強制受信してください。また、自動受信時間帯(AM2:30-AM6:30)に時計を置いている場所を変えてみましょう。 ノイズを発生するものから遠ざけ、標準電波をより受信しやすい環境で強制受信してください。
時計が一時的に遅い/遅れる。 受信ができていないのに正確な時刻を表示しない。 日付がずれている。	暑いところ、または寒いところに放置した。 テレビ、携帯電話等磁気発生するものそばに置いた。 磁気の影響で針位置がずれている。 落ちたり強くぶつけたりまたは激しいスポーツをした。 強い振動が加えられ、針位置がずれている。	常温に戻れば元の精度に戻ります。必要に応じて強制受信をしてください。元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。 磁気から遠ざけ、針の基本位置を修正してください。(「ご使用方法」はじめてご使用される場合、参照)元に戻らない場合は、お買い上げ店にご相談ください。
時刻が数時間単位でずれている。 ボタンBを押しても強制受信しない。	時差修正が行われている。	時差修正が行われていないと、強制受信ができなくなります。時差の設定が不要の場合は、ボタンAを押し続け、時差修正を元に戻してください。
日付が表示されない、時差修正ができない、ガラスのくもりが消えない。	電池交換やシステムリセット後、標準電波が受信できていない。 バックの劣化などにより時計内部に水分が入った。	標準電波を受信できる場所で強制受信をしてください。 お買い上げ店にご相談ください。

その他の現象は、お買い上げ店にご相談ください。

## 使用上の注意とお手入れの方法

注意

### 日常のお手入れ

- ケース・バンドは肌着類と同様に直接肌に接してします。汚れたままにしておくと汗や皮脂の袖口を汚したり、かぶれの原因になることがありますので常に清潔にご使用ください。
- 時計をはずしたときには、柔らかい布などで汗や水分を拭き取ってください。汚れも取れ、ケース、バンド、およびバックの寿命が伸びてきます。

金属バンド

- 金属バンドは時々柔らかい歯ブラシなどを使い、石けん水で部分洗いやなどのお手入れをお願いします。その際に、非防水の時計の場合は時計本体に水がかからないようにご注意ください。

皮革バンド

- 革バンドは水分を吸い取るように軽く拭いてください。こするように拭くと色が落ちたり、ツヤがなくなったりする場合があります。

軟質プラスチックバンド

- ウレタンバンドなど軟質プラスチックでできているバンドは、蛍光灯や太陽光の下に長時間放置されたら、汚れが染み込みだりすることによって、色あせ・変色、あるいは硬くなり切れたりする場合があります。特に半透明のウレタンバンドは、変色などが目立ちやすく、条件によっては数ヶ月のご使用で起こり始める場合があります。湿気の多い場所に保管したり、汗や水で濡れたまま放置しておく、早く変色することがありますので、汚れたときは、石けん水で洗ってください。ただし、化学製品でするので溶剤によっては変質する場合があります。

非防水時計は、水(水道の水はね、雨、雪など)や多量の汗にご注意ください。万一、水や汗で濡れた場合には吸湿性のよい布などで水分を拭き取ってください。日常生活用強化防水時計は海水中等での使用のあと、化学薬品類を使用せず、ためた真水で洗ってください。回転ベゼルつき時計の場合、ベゼル下に汚れなどがたまり、回転が重くなったりしますので清潔にご使用ください。

注意

### かぶれやアレルギーについて

バンドは多少余裕を持たせ、通気性をよくしてご使用ください。かぶれやすい体質の人や体質によっては、皮膚にかゆみやかぶれをきたすことがあります。かぶれの原因として考えられるものは、

1. 金属・皮革に対するアレルギー
2. 時計本体及びバンドに発生した汗、汚れ、付着した汗などです。
3. 万一肌などに異常を生じた場合は、ただちに使用を中止し医師にご相談ください。

## 保管について

「5 - +50」からはずれた温度

磁気や静電気の影響があるところに放置しないでください。

極端にホコリの多いところに放置しないでください。

強い振動のあるところに放置しないでください。

湿気や腐食系消毒液など

温度や湿度に敏感な部品は、必ず乾燥剤を入れた状態で保管してください。

薬品の蒸気が発生しているところや薬品にふれるところに放置しないでください。(薬品の例：ペジシン、シンナーなどの有機溶剤、及びそれらを含むもの、ガソリン、マニキュア、化粧品などのスプレー、クリーナー、トイレ用洗剤、接着剤など)

温度や湿度に敏感な部品は、必ず乾燥剤を入れた状態で保管してください。

注意

### 防水性能

時計の文字板または裏蓋にある防水性能表示をご確認の上、使用可能範囲にそってご使用ください。

水のついたままりユズを回したり引き出さないでください。時計内部に水分が入ることがあります。

非防水	日常生活用防水	日常生活用強化防水	5気圧防水	10・15・20気圧防水
ケース裏にWATER RESISTANTの表示のある時計	×	×	×	×
ケース裏にWATER RESISTANTの表示のある時計	×	×	×	×
ケース裏にWATER RESISTANT 5・10・15・20BARか、WATER RESIST 5・10・15・20 MARKの表示のある時計	×	×	×	×

洗剤や雨など一時的水かかるとか。

水泳や水仕事など長時間水にさらされる場合。

空気式ペンを使用する消火器や空気式ペンを使用する消火器。

空気式ペンやヘリウムガスなどを使用する圧縮空気。

水滴がついた状態でのボタン操作。

## 入浴について

- 1気圧以上の防水の場合、時計をつけたまま入浴してもかまいませんが、下記のご注意に注意してください。
- 時計に、石けんやシャンプーがついた状態で、リュウズ操作やボタン操作を行わないでください。
- 防水機能が維持できなくなることがあります。(温水時計が温まりますと、多少の進み、遅れを生ずることがあります。ただし、常温にどれほど精度はもとにもどります。

警告

- 日常生活用防水(3気圧)の時計は水の中に入れてしまうような環境での使用はできません。
- 日常生活用強化防水(5気圧)の時計は、スキューバダイビングを含めて全の潜水に使用できません。
- 日常生活用強化防水(10・15・20気圧)の時計は、飽和潜水(空気潜水)には使用できません。

注意

掛け時計やペンダント時計の場合、ひもやチェーンによって衣類や手・首などを傷つける事がありますのでご注意ください。

## その他、携帯上ご注意いただきたいこと

- バンドの着脱の際に中留など爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 転倒時や他人との接触などにおいて、時計の装着が原因で思わぬケガを負う場合がありますのでご注意ください。
- 特に乳幼児を抱いたりする場合は、時計に触れることでケガを負ったり、アレルギーによるかぶれをおこしたりする場合がありますので十分ご注意ください。

## 定期点検について

- ながくご愛用いただくために、2 - 3年に一度程度の点検調整をおすすめします。定期的な点検により目に見えない部分の原因となる損傷を未然に防ぎ、より安心してご使用いただけます。保油状態、漏液の有無、汗や水分の侵入などの点検をお買い上げ店にご相談ください。点検の結果によっては分解掃除を必要とする場合があります。
- 部品の交換の際は、「純正品(電池)」をご指定ください。電池が切れたまま長時間放置すると漏液などで故障の原因となりますので早めに交換をご依頼ください。
- 定期点検や電池交換の際にはバックヤブやパネ棒の交換もあわせてご依頼ください。

パネ棒

## 液晶パネルについて

この時計の液晶パネルは、硬過ぎますとコントラストが低下したり数字が読みにくくなります。お買い上げ店に交換をお申し付けください。有料にて申し受けます。

## 修理について

- 1 保証内容は保証書に記載のとおりですので、よくお読みください。大切に保管してください。
- 2 この時計の補修用性能部品の保有期間は通常3年間を基準としています。正常なご使用であれば、この期間中は原則として修理可能です。(補修用性能部品とは、時計の機能を維持するのに不可欠な修理用部品です。)
- 3 修理可能な期間内はご使用条件によいじりるしく異なり、精度が落ちるようになります。修理ご依頼の際にお買い上げ店とよくご相談ください。
- 4 修理のとき、ケース・文字板・針・ガラス・バンドなどは一部修理部品を使用させていただきます。またはケースごと一式交換や代替品に替わることがありますので、ご了承ください。
- 5 修理の内容によっては、修理代が標準小売価格を上まわる場合があります。その他、わからない点がありましたら「セイコーウォッチ株式会社お客様相談室」へお問い合わせください。